

Letter from Samoa

サモア通信 4th
Jan.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!新年あけましておめでとうございます。
サモアでは暑い日が続き、全く季節感のない生活をしており、気づいたら年が明けていました。今回はサモアに来て感じたちょっとしたカルチャーショックや興味深い出来事を綴りたいと思います。

○シェアの文化

サモアのシェア文化、そしてホスピタリティはなかなか衝撃的なものがあります。食べ物のシェアは日常茶飯事。バス停でバスを待っているときに、見ず知らずのおばちゃんが「食べる？」とパンを渡してくることもあります。学校の冷蔵庫に食べ物や飲み物を入れておく確実に他の先生の胃袋へ消えてなくなります。「食べ物=みんなのもの」という感覚が浸透しているような気がします。その他にも、「ペン貸して」と言われて返ってこなかったり、「はさみ貸して」と言われて貸したら食パンを切っていることもあります。携帯電話もシェアします。誰かの携帯が鳴っていたら、とりあえず「Hallo?」と電話をとってから持ち主に渡したりしています。村で豚をさばいているところに行ったら、「足の部分持っていくか？」と言われたこともあります。



このようにありとあらゆるものを「シェア」するツッコミどころ満載の文化に戸惑うこともありますが、シェア文化の中の優しさに触れながら、楽しく過ごしております。

○全て無料

「All things are free.」サモアでよく耳にするフ

レーズです。サモアには至る所に、バナナ、ココナッツ、カカオ、マンゴー、アボカド、パパイヤが生えています。これらは全て勝手にとって食べることができます。先日家の屋根にマンゴーが落ちてきて「ドンッ！」と大きな音がしたと思ったら「マンゴー！」と子ども達が叫びながら走ってきました。



○心あたたまるストーリー

サモアのバスでは混雑すると写真のように他の人の膝の上に座ります。ある日、混雑したバスに乗っていたときの話です。1人の女性がバスから降車しようとしたとき、別の乗客から赤ちゃんを受けとって降りていきました。きっと女性もその乗客も面識はなかったと思います。それでも混雑したバスに赤ちゃんを抱えた女性が乗ってきたときに、みんなが座れるようにと親切心で赤ちゃんを預かったのでしょう。赤ちゃんをバスで受け渡すなんて、日本では有り得ないことですが、サモアでは日常です。どんな人に対しても、みんなが居心地よく過ごせるようなホスピタリティの精神を見習いたいと改めて思った出来事でした。何か大きなことを成し遂げるよりも、身近な人へのちょっとした優しさが笑顔を広げる、そんな気がします。みなさん身近な人へのちょっとした優しさを忘れず毎日を過ごして欲しいと思います。それでは今年もよい1年を！Fa soifua！

